

令和5年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 医療型児童発達支援センター(通園) 】		担当部署	回答内容等
1	タイトル	社会状況の変化に合わせて、保護者の負担を軽減するために適切に対処することが望めます	通園科	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度より単独通園を開始し、保護者の心身の負担軽減に努めている。 ・きょうだい児については、居室や人員の課題があるが、今後に向けても検討を継続している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独通園は児童の発達支援の観点を第一に、無理のない範囲で就学に向けて精神的自立を図るために実施している。今後も、家族以外の他者との関りの中で、自己肯定感を高め、社会性の育成に努めていく。 ・利用時間的に保護者の就労支援までには至らないが、重度な児でも安心して預けられ、保護者が休養出来るような時間を設定していく。
	内容	これまで親子通園を基本としてきましたが、保護者の負担は大きく、女性の就労が普通になってきた社会の中では「通いたくても通えない」という状況も生まれています。センターとしても対応策を検討して、令和6年度から、単独通園を増やし、保護者の負担を軽減する方向にあるようです。職員体制など関連する課題も多いと思われそうですが、適切に対処することが望めます。併せて、兄弟児の同伴制限についても保護者の要望があるようなので検討することが望めます。		
2	タイトル	保育園や療育施設等との交流に積極的に取り組むことが望めます	通園科	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所等訪問支援事業等も活用しながら、より一層の地域交流の実施に向けて取り組んでいる。 ・設備面に関しては、利用する児童の状況を踏まえて、使いやすくなるよう工夫しながら、必要な改修等を適宜行っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当センター職員による他施設見学等、定期的に情報交換を実施しているので、今後は当センターの行事時に招待して交流を図る等の準備を進めていく。 ・施設老朽化については、計画的な改修等が必要であるが、現時点では、今ある状態を工夫して、療育がより実施しやすい環境設定に努めていく。
	内容	今後の検討課題として、保育園や療育施設等との交流をあげています。子ども達がいろいろな子ども達と触れ合う中でより豊かに成長していけるよう積極的に取り組むことが望めます。別な問題になりますが、施設・設備も古くなってきているので、医療的ケアを必要とする子どもの増加など利用者の変化に合わせて施設・設備の改善が課題になっています。現在の建物では難しい面があると思われそうですが、機会があれば、トイレ設備の改善、相談室の設置などは優先すべき課題と思われそうです。		
3	タイトル	センター改築に向けた検討を進めるとともに、現状の制約の中でも可能な範囲で設備改善・改修等を実施していかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダーリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進めていく。
	内容	建築後30年以上が経過して施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修等を検討する必要があると考えています。必要な補修はその都度対応していますが、療育場面でのハード面や設備面での課題(利用者数の増加や重症化等に伴う医療機器やベッド台数の増等による施設の狭隘化、成長期の児童の個室の確保・トイレの改善等の設備やエリア不足)もあるようです。「センター改築に向けた検討を障害者施策推進部と共に進めていく」とともに、現状の制約の中で可能な改善・改修を実施し、より適切な環境で療育支援サービスを提供していかれるよう望みます。		

令和5年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 生活介護(通所) 】		担当部署	回答内容等
4	タイトル	送迎と入浴の今後について、引続き対応策の検討が望まれます	通所	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者を安全に送迎できるよう、6台中4台を看護師添乗にするとともに、複数職員添乗やピストン送迎など様々な対応を行っている。また、ストレッチャー型車椅子の増加により、5名乗車予定のバスに4名しか乗車できないケースもある。 ・入浴中もほとんどの看護師と福祉の職員が支援しているため、入浴しない利用者の活動や見守りも行えるように対応中である。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時を想定した訓練を継続的に実施し、緊急時対応能力の向上に努めていく。 ・医師以下全員で個別性に応じた適切な対応を行い、安全・安心な入浴を実施していく。
	内容	送迎、入浴の今後について検討が必要です。①送迎は広い地域にわたるため運行時間が長く、ルート設定に苦労しています。重症化に伴い看護師添乗が必要なケースが増え、送迎中の安全確保対策も課題です。引続き、利用者の状況に応じた対策を講じていく必要があります。②入浴は利用者の要望の強いサービスです。重症化が進み、安全・安心な入浴のために一層の配慮・対策が必要になっています。入浴は、更衣や後の処置を含めて多くの人手と時間が必要なため、日中活動との両立が難しいという問題もあり、引続き対応策の検討が望まれます。		
5	タイトル	改善課題として確認が必要と思われる事項は、①施設の狭隘化対策、②利用日数増の要望への対応、③運営の安定性確保対策です	通所	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器装着等の理由からベッド利用の利用者も増えている。 ・利用希望に応えるため、臨時通所での対応等も行っている。 ・利用者の利用状況は、利用率が50%台後半を推移している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険予知トレーニングを実施し、安全かつ効率的にスペースが使えるよう、常に課題意識をもって取り組んでいく。 ・登録曜日以外の定期的な利用可能日数を積算し、柔軟に、登録日数増、定期的な登録曜日以外の利用日数増を検討していく。 ・継続的に濃厚かつ高度な医療的ケアが必要な利用者が多いことから、空きが生じた際、登録日以外の柔軟な受け入れを検討するとともに、利用者が満足できるようなきめ細かな対応を引き続き実施していく。
	内容	シートにも問題意識が記載されていますが、改善課題として確認が必要と思われる事項を挙げておきます。今後の課題として意識しておくことが望まれます。①利用者数の増加や重症化に伴う医療関係用品(特に医療機器)の増加、ベッドの増加により施設が狭隘化しており、対策が必要になっています。②利用希望に応えるために定数以上の人数を登録し、日数の上限(週4日)を設け調整を行っています。家族は事情を理解しつつ、日数増の要望は強い。③体調不良等で通所を休む利用者も多く、安定的な運営という点では難しい状況があります。		
6	タイトル	センター改築に向けた検討を進めるとともに、現状の制約の中でも可能な範囲で設備改善・改修等を実施していかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダーリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進めていく。
	内容	建築後30年以上が経過して施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修等を検討する必要があると考えています。必要な補修はその都度対応していますが、療育場面でのハード面や設備面での課題(利用者数の増加や重症化等に伴う医療機器やベッド台数の増等による施設の狭隘化、成長期の児童の個室の確保・トイレの改善等の設備やエリア不足)もあるようです。「センター改築に向けた検討を障害者施策推進部と共に進めていく」とともに、現状の制約の中で可能な改善・改修を実施し、より適切な環境で療育支援サービスを提供していかれるよう望みます。		

令和5年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 医療型障害児入所施設(旧重症心身障害児施設)(B1) 】		担当部署	回答内容等
7	タイトル	職員の負担軽減のために移動用機器の導入を積極的に行うとともに職員体制を確保することが望めます	看護科 B1病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動介助リフトを使用し、人力に頼らない移動移乗介助及び2人介助を推奨している。 ・令和5年度より病棟作業委託を導入し、周辺業務をタスクシフトしている。 ・看護師確保に努める一方で、看護補助者の採用を推進し、看護師とともに利用者の直接ケアを行うようにしている。 ・病棟間の看護師の連携・協働を実施している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活支援のためには移乗・移動動作は必須で、頻度も高い援助となっており、移動用器具の積極的かつ継続的な使用を通じて、2人介助を徹底していく。 ・連続休暇の取得を推進し、計画的に行っていく。 ・職員自身で定期的に腰痛体操などを行うよう職場で周知し、負担が蓄積しないよう職員に働きかけていく。
内容	重症の利用者が多く、全員が車椅子を使用しています。日常のケアで移動介助を行う職員は、業務の身体への影響で腰痛や腱鞘炎などの症状を抱えながら業務を行っているのが実情です。移動用機器の導入を積極的に行うとともに職員体制を確保して、職員の負担軽減を図ることが望めます。また、定期的に身体を休め、リフレッシュできるよう休息を確保するよう改善を図ることが望めます。			
8	タイトル	病棟業務を安定した体制で遂行できるよう対策の検討が望めます	看護科 B1病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔ケア、食事の準備、片付けは土曜・日曜においても必須業務であり、準備や片付けには時間を要するが、担当者を決めながら、かつ協力しながら実施している。 ・物品の整理整頓・補充・定数管理を行い、休日での業務効率化を維持している。 ・看護補助者業務のマニュアルの整備を進めている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接支援業務の充実のために、病棟作業員・看護補助者の業務はマニュアルの整備を進め、協働体制に努めていく。 ・病棟作業委託の土曜・日曜等への拡大を検討していく。
内容	業務改善の一環として令和5年度から、業務の一部を病棟作業員、看護補助者に委ねるしくみを導入しています。看護師が利用者の直接支援業務にウエイトを置けるようになるなど成果は出ているようですが、病棟作業は業務委託のため、現在は平日のみとなっていて、土曜、日曜は従来と変わらない状況が続いています。また、看護補助者はまだ一部に留まっています。365日、安定した体制がとれるよう対策の検討が望めます。			
9	タイトル	センター改築に向けた検討を進めるとともに、現状の制約の中でも可能な範囲で設備改善・改修等を実施していかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進めていく。
内容	建築後30年以上が経過して施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修等を検討する必要があると考えています。必要な補修はその都度対応していますが、療育場面でのハード面や設備面での課題(利用者数の増加や重症化等に伴う医療機器やベッド台数の増等による施設の狭隘化、成長期の児童の個室の確保・トイレの改善等の設備やエリア不足)もあるようです。「センター改築に向けた検討を障害者施策推進部と共に進めていく」とともに、現状の制約の中で可能な改善・改修を実施し、より適切な環境で療育支援サービスを提供していかれるよう望みます。			

令和5年度 福祉サービス第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」への対応

No.	【 医療型障害児入所施設(旧肢体不自由児施設)(B3) 】		担当部署	回答内容等
10	タイトル	多様な像を持つ利用者の支援を的確に行うために、引き続き、職員体制の強化や人材育成に努力することが望まれます	看護科 B3病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員には東京都看護師基礎講座、中堅職員には院内の重症児者看護シリーズ研修や日本重症心身障害学会に参加し専門性を高めている。今年度は東京都福祉局主催・重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修を受講し、得た知識を職場に還元していく予定である。 ・日々のケアでは精神面、心理的サポートが必要な児童に対し精神科医からの助言や臨床心理士からの助言、そして学習会の開催を通してスタッフの知識向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識は、院内外部の研修に参加し向上を図ると共に、複数の認定看護師、重症心身障害看護師などを活用し、実践の技術の向上を図り、リーダー育成を目指していく。 ・精神面・心理的サポートについての学習やカンファレンスを継続的に行い、日ごろのケアについて評価を行い、不安解消を図る。 ・今後も多職種と協働し、カンファレンスや個別支援会議で情報交換を行いながら、利用者のケアにあたっていく。
	内容	利用者の約6割は重度の知的障害を持つ重症心身障害児です。年齢も幼児から卒後児まで幅広く、身体の大きな複数介助を要する利用者もいます。いろいろな背景を持つ措置入所が多いのも特徴です。このような多様な像を持つ利用者に対して、精神面を含めて適切なケアを行うことが大きな課題です。そのためには、医師・看護師をはじめ指導員など職員の確保と定着、専門的力量的向上が重要であり、引き続き、職員体制の強化や人材育成に努力することが望まれます。		
11	タイトル	18歳超の利用者が社会参加の幅を広げ、QOLの向上を図ることができるよう社会資源の活用・開拓に取り組むことが望まれます	看護科 B3病棟	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師と福祉職が協働し、製作、調理、外出など日中活動を計画し、日常生活の場としての関わりを持っている。 ・障害者支援センターとの交流を再開、実施している。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種制度を活用しながら、医療相談、児童指導員等の職員とも連携し、入所者の社会的成長を促していく。
	内容	医療的なケアが必要な状態の利用者は18歳を超えても成人施設への移行が難しく、現在も18歳超の利用者が在籍しています。医療型障害児入所施設と療養介護の両方の指定を同時に受けるみなし規定が恒久化されたことにより、利用者の年齢や状態に応じた適切な日中活動の提供が課題となっています。利用者が社会参加の幅を広げ、QOLの向上を図ることができるよう社会資源の活用・開拓に取り組むことが望まれます。		
12	タイトル	センター改築に向けた検討を進めるとともに、現状の制約の中でも可能な範囲で設備改善・改修等を実施していかれるよう望みます	庶務担当	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのサービスに影響が出ないよう、施設・設備の維持管理や補修、更新等に随時対応している。 ・オーダリングシステムを令和3年度に導入するなど機器のシステム化を進めており、情報の一元化や支援の時間確保などのサービス向上を図っている。 <p>[考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見等を踏まえて、より一層安全で過ごしやすい環境を整備できるよう、施設・設備を適正に管理していく。 ・都の関係部局と協議しながら計画的な補修や更新に努めるとともに、施設の改築等の検討を進めていく。
	内容	建築後30年以上が経過して施設設備の老朽化が進み、計画的な施設改修等を検討する必要があると考えています。必要な補修はその都度対応していますが、療育場面でのハード面や設備面での課題(利用者数の増加や重症化等に伴う医療機器やベッド台数の増等による施設の狭隘化、成長期の児童の個室の確保・トイレの改善等の設備やエリア不足)もあるようです。「センター改築に向けた検討を障害者施策推進部と共に進めていく」とともに、現状の制約の中で可能な改善・改修を実施し、より適切な環境で療育支援サービスを提供していかれるよう望みます。		